

講義名	研究演習 (人)		
講義コード	25213	授業形態	
担当教員	山口 志郎	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 5時限
		オンラインコード	SEM250

学部・学科	演習分野
人間社会学部・人間健康学科	スポーツ&イベントマネジメント(山口志郎ゼミナール)

#### 概要説明

2021年東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催以降、スポーツおよびイベントが社会や地域に与える影響はますます注目されている。本ゼミでは、スポーツで起こる様々な現象をイベントマネジメント(特にマーケティング)の観点から探究する。なぜFIFAワールドカップやオリンピックは多くの人々を惹きつけるのか、なぜ東京マラソンや大阪マラソン、神戸マラソンに多くのランナーが参加するのか、なぜスポーツ関連企業のプロモーションは人々の行動に影響を与えるのか、といった問いを出発点とする。

その上で、本ゼミでは、こうしたスポーツイベントに関する現象を実証的に理解するため、まず先行研究および理論的枠組みに基づき、研究目的を明確化した上でリサーチエッセンスを設定し、それに基づいて検証可能な仮説を構築する。質問紙調査、インタビュー調査、フィールドワークなどの社会調査法を用いて検証を行い、得られた量的データはSPSSによる統計分析を通して検証し、質的データはKHコダーを用いたテキスト分析(頻出語分析や共起ネットワーク分析等)により整理・可視化する。これらの活動を通して、問いの設定から仮説構築、検証、考察までの一連の研究プロセスを体系的に習得することを旨とする。また、研究テーマの性質に応じて、仮説検証型の分析に加え、探索的分析も適切に位置づけながら検討する。なお、調査の実施にあたっては、個人情報保護および研究倫理に十分配慮する。

2回生の後期(研究演習 )の活動  
2回生では、前半にスポーツ界で起こっている様々な現象の背景を探るため、新聞記事やニュース、関連資料などを用いて情報収集を行い、ディスカッションを通してスポーツ&イベントマネジメント(特にマーケティング)に関する問題意識を高める。また、文献の読み方やテーマ設定の方法を学びながら、物事を多角的に捉える力を養う。

後半には、自分たちで研究テーマを設定し、スポーツイベントやプロスポーツチームを対象とした会場(スタジアム、体育館、競技場等)でのアンケート調査を実施する。その際、スポーツイベントやプロスポーツチームの担当者や打ち合わせを行い、先方のニーズを捉えながら調査設計を立てる。現地での調査に向けて質問項目を検討し、Googleフォームを用いたオンラインアンケートフォームの作成を行うなど、調査設計の基礎を学びながら実際の現場でデータ収集を行う。これらの活動を通して、スポーツ&イベントに関する現象を自らの手で捉える経験を積み、3回生以降の研究活動につなげていく。

3回生の活動(研究演習 )  
3回生の前期では、2回生の最後に収集したデータのクリーニングを行い、欠損値や信頼性が低い項目の確認・整理を行う。データを確認しながら再度文献講読を行い、リサーチエッセンスを明確化し、それに基づいて仮説を構築する。その上で、仮説検証に適した分析方法を決定し、測定尺度の信頼性・妥当性(例：内的一貫性の確認等)を確認しながら検証を行う。具体的には、単純集計やクロス集計、t検定、一元配置分散分析などの基礎的統計手法を教員の指導のもとで実施する。その後、分析結果をパワーポイントにまとめ、担当者へのプレゼンテーションに向けた準備を行う。また、調査の実施およびデータの取り扱いに際しては、個人情報保護や倫理的配慮についても指導を行っている。

さらに、兵庫体育・スポーツ科学学会でのポスター発表に向けて抄録(Abstract)を作成し、発表準備を行う。学会では、グループで作成したポスターの前で3分間のプレゼンテーションを行う。前期の最後には、担当者に対して調査結果の報告会を実施し、現場での社会調査を通して得たエビデンスや知識、経験を発表する。3回生の後期では、スポーツ&イベントマネジメントに関わる企業と協働しながら社会共創活動を行う。具体的には、現場でのフィールドワークを基に社会課題を設定し、その課題解決に向けた社会調査をインタビューやアンケートを用いて実施する。得られたデータをもとに、前期での学びを踏まえて仮説設定やデータ分析を行い、調査結果から導かれた示唆を基にパートナー企業に対する企画提案を行う。担当者に同席いただきながら中間発表を行い、先方からのフィードバックを踏まえてグループごとに再度企画内容の精査を行う。必要に応じて追加調査を実施し、現場のさらなる理解を深める。その後、最終発表を担当者に向けて行い、より実現可能性の高い企画提案へと発展させていく。

4回生(研究演習 ・卒業論文)  
4回生では、スポーツ&イベントマネジメントに関する各自の関心に基づき、研究演習 および卒業研究に段階的に取り組む。研究演習 では、卒業研究を見据えた研究テーマの精緻化を行い、先行研究レビューを深化させるとともに、研究目的およびリサーチエッセンスを明確化する。その上で、理論的枠組みに基づく仮説を構築し、質問紙調査、インタビュー、参与観察等の方法を用いてデータ収集・分析を実施する。中間報告やディスカッションを通して研究内容を改善し、論理的構成力を高める。  
卒業論文では、研究演習 で進められた成果を基に、分析結果の統合および考察を深化させ、研究計画の最終化と論文執筆を自主的に遂行する。最終的に、一連の研究プロセスを統合し、科学的根拠に基づく議論を構築することを旨とする。

#### 主な卒業論文のタイトル

温浴施設におけるヘルスツーリズム推進の可能性：知覚価値、満足度、再訪意図の関連性に着目して  
アスレジャー市場におけるライフスタイルに関する研究：10・20代の大学生に着目して  
企業交流運動会におけるイベント効果と満足度に関する研究：参加者における性別・年代比較  
子どもの居場所としての子ども食堂の役割：スポーツを通じた社会的包摂アプローチ  
体育会水泳部に所属している選手の健康意識と幸福感に関する研究  
スポーツバーの現状と参与観察・写真分析に関する研究  
大学生のスポーツにおけるモチベーションと学業との関係性  
ハンドボール競技における参加動機と継続要因に関する研究  
女子プロ野球観戦における観戦動機・阻害要因に関する研究：観戦者における性別比較  
市民マラソンの参加動機に関する研究：参加者の個人的属性の違いに着目して

#### 教員からの要望

ゼミは講義と違い、自主的に行う活動です。自分の興味あるテーマやトピックについてとことん追求してください。また、課外活動(神戸マラソンランナー調査、レッドハリケーンズ大阪観戦者調査、アルパモス大阪高石観戦者調査、ネスタリゾート神戸社会共創プロジェクトなど)を通して、現場での社会調査を経験しながら、データ収集や分析の基礎を学び、プレゼン力やコミュニケーション力を身につけてください。必ず就職活動に活かせるはず。みんなのやりたいことを全力でサポートするので、一緒に頑張りましょう！

#### 選考方法

ゼミ希望者の履歴書、成績、面接を総合的に判断しながら選考します。必ず個別ガイダンスにお越しください。

評価方法
出席、課題(レポート、プレゼンテーションなど)、ゼミ活動に対する積極性や貢献度によって評価します。

#### 到達目標・成果物

研究演習 (2回生後期)  
【到達目標】  
スポーツ&イベントマネジメントに関する現象を対象に、文献講読や情報収集を通して問題意識を明確にし、研究テーマを設定できるようにする。また、先行研究を踏まえて研究目的を整理し、理論的枠組みに基づきリサーチエッセンスを設定できるようにする。さらに、質問紙調査の基礎的な調査設計(質問項目作成、尺度設定、調査方法の検討)ができるようになる。  
【成果物】  
・研究企画書  
・質問紙案  
・オンライン調査フォーム

教員英字氏名	研究室
Shiro Yamaguchi	5406

#### 最終学歴

和歌山大学大学院 観光学研究科博士後期課程修了

#### 学位

博士(観光学)、修士(スポーツ健康科学)

#### 主な研究活動・社会活動・研究業績

スポーツイベントマネジメントおよびスポーツ都市政策を専門とし、スポーツイベントにおける意味創造としての「場(Ba)」の生成、スポーツイベントを媒介とした都市の意味生成とヘリテージ継承(箱根駅伝および欧州事例)、スポーツ・健康まちづくり政策の実証分析、SROIを用いたスポーツの社会的インパクトの可視化、パーソナルサイクリングにおけるオンラインコミュニティ研究などを主たる研究テーマとしている。これまでに日本学術振興会科学研究費助成事業(若手研究B・2回、基盤研究C)をはじめ、神戸大学発アーバンイノベーション神戸、笹川スポーツ研究助成等の外部研究資金を獲得し、実証研究を継続している。

現在、ブリュッセル自由大学客員研究員を務めるほか、スポーツ庁参事官(地域振興担当)技術審査専門員、大阪府都市魅力戦略推進会議委員、大阪府スポーツ推進審議会専門委員、兵庫県スポーツ協会経営委員会委員、播磨町部活動地域移行推進連絡協議会委員、播磨町スポーツアドバイザー、神戸商会議所神戸スポーツ産業懇話会世話人等として政策および実践にも関与している。

学会・学術活動として、イベント学会理事、兵庫体育・スポーツ科学学会理事、日本生涯スポーツ学会研究企画委員を務めるとともに、『イベント学研究』『体育・スポーツ科学』編集委員、Journal of Convention & Event Tourism および International Journal of Sport and Health Science の Editorial Board Member を務めている。

これまでに Sport Management Review, Sport Marketing Quarterly, Sport, Business and Management: An International Journal, Event Management, Journal of Convention & Event Tourism, International Journal of Sport and Health Science などの国際誌、ならびに『体育学研究』『スポーツマネジメント研究』『生涯スポーツ学研究』『体育・スポーツ経営学研究』『イベント学研究』等の国内主要学術誌に多数の査読付論文を発表している。

#### 趣味・特技

趣味：温泉巡り、読書(推理小説)、子どもと遊ぶこと  
特技：テニス

#### 所属

人間社会学部人間健康学科

#### 所属学会

日本体育・スポーツ・健康学会、日本スポーツマネジメント学会、日本生涯スポーツ学会、イベント学会、兵庫体育・スポーツ科学学会

#### 専門分野

スポーツイベントマネジメント、スポーツ都市政策

#### 担当科目

スポーツマネジメント論、スポーツマーケティング、健康サービス企画運営論、健康サービス企画運営演習、スポーツイベント論、専門基礎演習、研究演習、研究演習、卒業研究(卒業論文)、教養基礎(人間健康学科へのいざない)

#### 備考

#### 実務経験の有無及び活用

実務経験あり：スポーツ関連企業やスポーツイベント、健康関連産業とのネットワークを活かし、ゲスト講義の依頼や現場実習(フィールドワーク)、担当者へのプレゼンテーション機会を創出する。